

無念の峰で無念の敗退

戸隠連峰 戸隠山P1尾根 (中退)

冬の戸隠には以前から行きたいといろいろルートを見ていた。夏には八方睨みを偵察していたがメンバーの希望によりP1尾根となり、どのような様子か地図とにらめっこする。記録では「無念の峰」で幕を張るパーティを多く見かけるが、地図上ではどこかよくわからない。既に行ってる先輩方に場所を聞いても「無念の峰？うーんよく覚えてないねー。ま、行けば分かるよ。」とのお返事。1650mに小ピークがあるのでここかな？と思って印をつけた。

3月11日 (土) : 晴

7:20に上楠川文化センターを出発。20分ほど歩いたところで私が濃い飲料を忘れたことに気づき引き返したため1時間ほどタイムロス。その後何度か渡渉を繰り返し、大平に上がる。2日ほど前に降雪があり20cm位の新雪の中を進む。やがて急登となり無念の峰と思われるポコの手前に到着する。以外とあっさり到着したため早々に宴会開始。このままいけば楽勝かな〜と思っていたが、実は全くの見当違いにここではまだ気付いていなかった。



戸隠きれいだねールンルン♪



これが無念の峰か。

3月12日 (日) : 晴

最初から進路を岩場に阻まれ苦労しながら這い上がる。これで無念の峰を越えた。ここで登り返し用ロープを残置してポコを降りるはずが、あれ？なんてことはないスタスタ降りられる。その後再び岩場が現れたのでロープを出して1ピッチ目を佐藤、2ピッチ目は吉澤君が取りつき、その後は大きい雪壁をダブルアックスで登っていく。不思議だ。蟻の門渡りをとうに通過しているはずだが、どこにあったのか全然わからない。1850m付近で再び最後の核心と思われる雪壁に阻まれ、吉澤君が雪を崩して越える。その先は穏やかな稜線が待っていたが第一峰はまだ遠い。タイムリミ

ットが近づいていることもあり、皆で相談してここで引き返すことにした。しかし後ろ髪惹かれる思いの吉澤君が眺めが良さそうな少し先の小ピークまで行こうと言うので行ってみた。そしたらそ

【日程】

2017年3月11日(土)
~3月12日(日)

【メンバー】

佐藤(里)(L)、松本、吉澤

【地形図】

戸隠、高妻山

【記】佐藤(里)

の先の景色に…愕然とした。

その先は延々と続くギザギザのギャップ、蟻の門渡り、そして行く手を阻むかのごとく切り立った雪壁など全てが一望できる。なんと、ここが無念の峰だ！昨日泊まったのはただのポコだ。あまりの間違いに呆然と立ちすくむ。とすると今まで苦労して登ってきた大きな雪壁が熊の踊り場だったのか、先輩のおっしゃる通り、来たら全てがわかった。

こうなれば後ろ髪もへつたくれもない、さっさと降りなきゃ時間がない。といっても下山も楽ではない。懸垂下降中にロープが雪にめり込んで回収できず登り返したり、それなりに時間をかけつつテン場に戻り、大急ぎで撤収してへろへろになりながらなんとか18時前には下山できた。

(こんなことがあっても下山後いつも通りささやかな宴を催したのは言うまでもない)

今回の中退は私のリサーチ不足でずいぶん下に泊ったのが主な原因だが、もし場所がわかっても全装備背負って無念の峰まで到着できただろうか。リーダーでありながら技術不足、体力不足でずいぶん足を引っ張った。課題が山積だが自分の弱点全てを見つめなおすいい機会だった。これから鍛えなおすしかない。メンバーの皆さんこれに懲りずまたよろしくをお願いします。



こ、これは！（本当の無念の峰にて）

【行程】

3/11 上楠川文化センター(7:20)～大平(10:00)～1650m付近(12:30)C1

3/12 C1(5:30)～無念の峰(11:00/12:00)～C1(16:00)～上楠川文化センター(18:00)